

# 特別支援学校中学部保健体育科における資質・能力の育成のための 主体的・対話的で深い学びに関する検討

西見 泉美 (熊本大学)

## 1. 目的

新学習指導要領において、特別支援学校においても「主体的・対話的で深い学び」を実現し、子どもに生きる力（「生きて働く知識・技能」「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性等」の三つの資質・能力）を育成することが求められている。しかし、障害のためにそのような学びを行うために重要な思考し判断し表現することが苦手な子どももいる。そこで本研究では授業観察とインタビュー調査を行い、特別支援学校の生徒の生きる力（資質・能力）を高める「主体的・対話的で深い学び」を実現するために適切な指導・支援について検討することを目的とした。

## 2. 研究方法

K 大学教育学部附属特別支援学校中学部（1～3年生 18名）の体育の授業を観察し、筆記による記録を行った。また授業における生徒の様子をビデオで撮影し、その映像から教師の指導・支援に対する生徒の反応について分析を行った。また、授業を行った教師へのインタビューを行った。

## 3. 結果

生徒の資質・能力を高めるための教師の働きかけとしては以下のものが有効であった。

### 【教師の意図的関与】

- ①学習環境づくり（生徒が安心できるチーム編成の工夫等）
- ②教材・教具の工夫（生徒に合わせたルール工夫等）
- ③授業の進め方の工夫（似ている活動をくり返し行うこと等）
- ④教師の直接的な支援（生徒の気持ちを教師が代弁すること等）
- ⑤外発的動機づけ（教師は積極的に生徒のことをほめること等）

### 【教師の間接的関与】

- ①生徒同士の協力（ほかの生徒への応援等）
- ②生徒の心理状態（いつもと違う環境において張り切ること等）

## 4. 考察

特別支援学校中学部保健体育科において、生徒の資質・能力を高めるために特に重要なことは三つあると考える。一つ目は、生徒の学習意欲の喚起である。意欲がもてず、「やらされる活動」では、自ら考えることがなく、深い学びにつながらない。二つ目は、教師は生徒に活動の方法・目的を伝えて、それを生徒に理解させ、考えさせ、工夫させるということである。生徒が活動の方法・目的や動きのポイントを理解できていないときは、生徒の動きは改善されず、教師からの指示で動くことが多かった。しかし、動きのポイントを生徒が理解することで生徒は「どのようにしたら上手くいこうか。」と考えながら活動に取り組み、生徒の動きが改善されていった。生徒が理解できてこそ「考える」ことができるようになり、深い学びにつながり、生徒の資質・能力が高まると考えられる。三つ目は、個に応じた指導を行うということである。特別支援学校においては、理解力や運動技能において生徒間で大きな差が見られた。そこで教師が個別に対応することが重要であった。また、個に応じた指導を円滑に行うためには、教員が共通理解を図ること、生徒の特徴を深く理解しておくことが重要だと考察された。

## 5. 結論

生徒の資質・能力を高めるために適切な指導・支援として以下のことが明らかとなった。

- 1) 生徒に育成したい資質・能力を明確にしたうえで生徒の学びが円滑に進むように、指導・支援することが重要である。
- 2) 生徒の学習意欲の喚起、生徒の知識の蓄積、個に応じた指導を行うことが重要である。
- 3) 教師の指導・支援としては、具体的に、学習環境づくり、教材・教具の工夫、授業の進め方の工夫、直接的な支援、外発的動機づけの五つが特に有効であった。